

第4章 エリア別 夜間景観形成の方針

4-1. 7つの夜間景観形成の方針

① 平戸湾周辺の夜間景観形成

- ・平戸らしさを象徴する眺望夜景を磨きあげ、目的地となる風景創出をめざします。
- ・水際の暗がりを払しょくし、市民にとって安全安心な水辺環境形成に努めます。
- ・港湾夜景を眺められる場所の環境形成に努めます。

② 主要観光ポイントの夜間景観形成

- ・オランダ堀エリアは、堀の魅力を輝かせ、夜間にも散策ができる環境形成に努めます。
- ・寺院と教会の見える道エリアは周辺民間施設と連携しながら夜間にも安全安心に散策ができる魅力的なエリア形成を目指します。
- ・崎方公園の安全安心をたかめます。

③ 平戸城下旧町地区の夜間景観形成（含ほのあかり）

- ・公民連携の取組みで修景された町屋の美しい夜間景観形成に努めます。
- ・修景町屋のライトアップがひきたつ公共照明をめざします。
- ・路地や歴史の道など周辺施設の夜間景観を整え、めぐる楽しさの創出に努めます。

④ 路地の安全安心の確保

- ・路地の暗がりを払しょくし、市民が日常的に心地よく暮らせる環境形成に努めます。
- ・平戸らしい情緒的な陰影を大切にします。

⑤ 主要道路環境の改善

- ・暗がりを払しょくし、歩行者にとっても安全安心な道路をめざします。
- ・来街者の期待に応える観光地らしさ（平戸らしさ）の感じられる道路環境をめざします。

⑥ 河川エリアの夜間景観改善

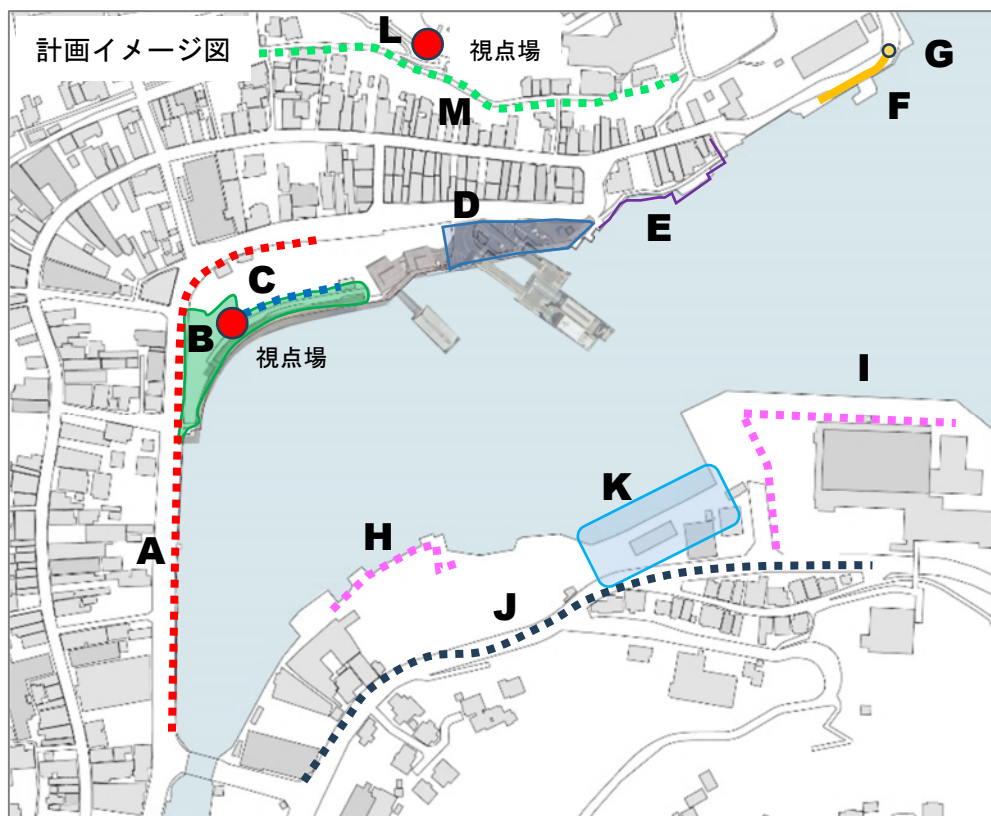
- ・危険な暗がりを払しょくし、市民が安全安心に暮らせる水際の環境形成に努めます。
- ・橋梁や水際の個性を活かし、水に囲まれたエリアならではの魅力を創出し回遊性をたかめます。

⑦ 民間の取組による夜景ランドマークの拡充

- ・点在する神社仏閣などの景観資源のライトアップ等を民間によって取組むなどさらなる平戸の文化的魅力の発信をめざします。

4-2. 平戸港周辺の夜間景観形成

崎方公園エリアの高台を視点場とする湾を眺める眺望夜景、平戸港交流広場を視点場とする海と平戸城のおりなす見あげの夜景を整え、それらの夜景を楽しむ広場やデッキの快適性と安全安心を創出します。市民が日常的に湾の周辺を快適に利用できるとともに、平戸湾夜景が旅の目的地となることをめざします。



	場所	計画内容
A	海岸通り	既存照明の電球色 LED 化
B	平戸港交流広場	照明演出による安全安心と快適性確保
C	駐車場	海際遊歩道部の暗がりの払しょく
D	海岸通り	暗がりの払しょく
E	海際デッキ	手すり照明追加によるランドマーク化
F	海岸通り	カーブの明るさ感確保（手すり照明による）
G	辻行灯	視認を阻害する街路灯の改善
H	市役所駐車場	海側緑地公共照明（低ポール灯）の配置による眺められる夜景への改善
I	文化センター	海側緑地公共照明（低ポール灯）の配置による暗がりの払しょく
J	城下通り	街路灯の色温度統一（電球色：2700K もしくは 3000K）
K	船着き場	夜景づくり（壁面・石垣などのライトアップ等）
L	崎方公園	視点場の環境再整備・色温度調整、和風庭園のライトアップ
M	仮称) ハーバービューロード	照明整備（手すり照明・低ポール灯・樹木ライトアップ 他）

1) 眺望景観を整える全体イメージ

平戸湾を囲むように家々が建ち並び、高台には平戸城やザビエル記念教会などを望むことができる眺望は、まさに平戸ならではの景観です。

宿泊施設や商店が集積する旧町地区側の高台である崎方公園付近を視点場と位置づけ、そこから望む「平戸湾眺望夜景」の形成に努めます。



2) 各部の修景イメージ

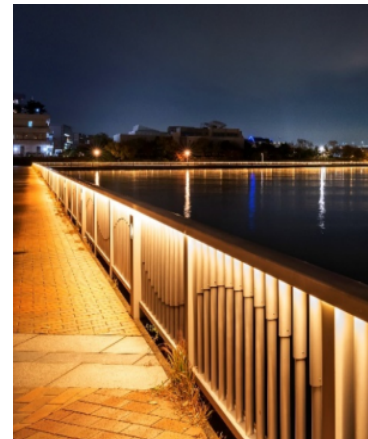
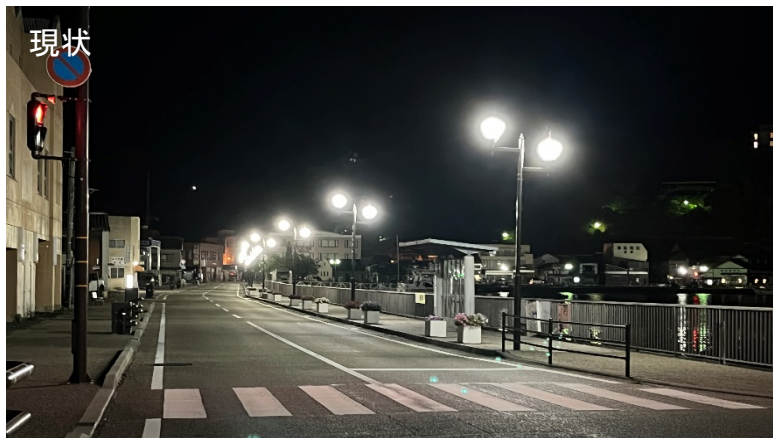
A) 海岸通り

①既存照明の電球色化

観光地の夜間景観にふさわしくない眩しすぎる白色光から、暖かな電球色で今よりもまぶしくないものに改修します。

②手すり間接照明の追加

歩行者のスケールで路面の明るさを感じる低位置の間接照明がそぞろ歩きを誘発します。



【参考】手すり間接照明



【街路灯】

電球色（3000K～2700K）の LED 電球（現状 HID 光源の明るさ 1 ランクダウン相当）への変更もしくは色温度変換シリコンシートによる色温度変更

【手すり間接照明】

水に映り込む状況も楽しめるシームレスタイプのテープライトを笠木部分の下部に設置。路面の明るさにも寄与する 14W/m 以上の照明

B) 平戸港交流広場

①ライトアップによる安全安心と快適性確保

樹木や彫刻のライトアップは、鉛直面の明るさ感に大きく寄与し広場の暗がり
を払しょくします。

②照明付きベンチ

海を眺めたり語り合ったりできる座れる場所は、夜の利活用には必須です。照
明を入れることで安心感が増し、座りやすくなります。

③ポールスポットライト

路面を明るく照らします。



現状



【参考】ベンチ間接照明・樹木ライトアップ



改修イメージ

【樹木ライトアップ】

2000 ルーメン程度のスパイク式スポットライト。広角

【ベンチ間接照明】

海を眺めるための装置。あかりを反射させて明るさ感も高まる。埋設型 LED ラインライト

【ポールスポットライト】

高さ 4 m 程度のポールに 2000 ルーメン程度のスポットライトが 3 灯

【彫刻ライトアップ】

正面のグランドレベルにスパイク式の小型スポットライトを設置。700 ルーメン程度

【船舶ライトアップ】

ポールスポットの 1 灯を利用しふんわりと照射

C) 平戸港交流広場駐車場海側ボードウォーク

H) 市役所駐車場

I) 文化センター海側

①海際の遊歩道部の暗がりの払しょく

遊歩道沿いに下方配光の低ポール照明もしくは手すり間接照明を配置し、歩ける明るさを確保。

②既存照明の色温度変更（3000K 以下）

周辺と調和する暖かなあかりで風情のある環境へ改善。



現状



【参考】低ポール灯



手すり間接照明



改修イメージ

【低ポール灯】

下方配光の LED 低ポール灯。500 ルーメン程度。2700K

【手すり間接照明】

ドットレスタイプのテープライトを手すり笠木下面に L アングル等で設置。

【ポールスポットライト】

高さ 4 m 程度のポールに 2000 ルーメン程度のスポットライトが 3 灯

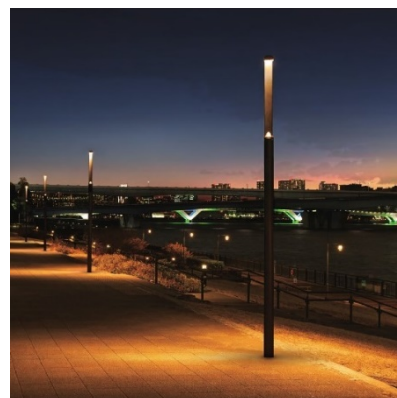
【既存照明】

色温度の変更（ランプ交換もしくは色温度変換シリコンを灯体内に挿入）

D) 海岸通り

①暗がりの払しょく

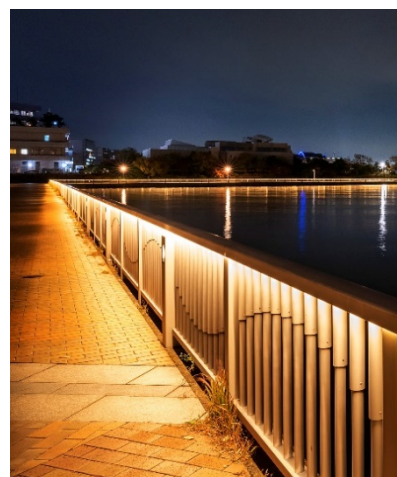
ポール照明の設置により、暗がりを無くす工夫を検討し、路面を明るく照らす。



【参考】ポール照明

E) 海際デッキ

手すり照明追加によるランドマーク化（民間含む）



【参考】手すり間接照明

F) 海岸通り

カーブの明るさ感確保（手すり照明による）

G) 辻行灯

辻行灯の姿を阻害してしまっている街路照明は、位置をずらすか撤去し、辻行灯のあかりが目に入るように改修検討。



L) 崎方公園

M) ハーバービューロード（仮称）

①視点場までの園路・視点場の暗がりの払しょく

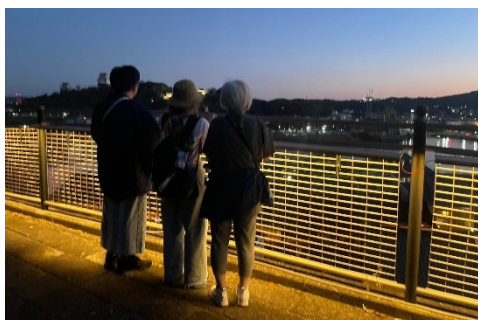
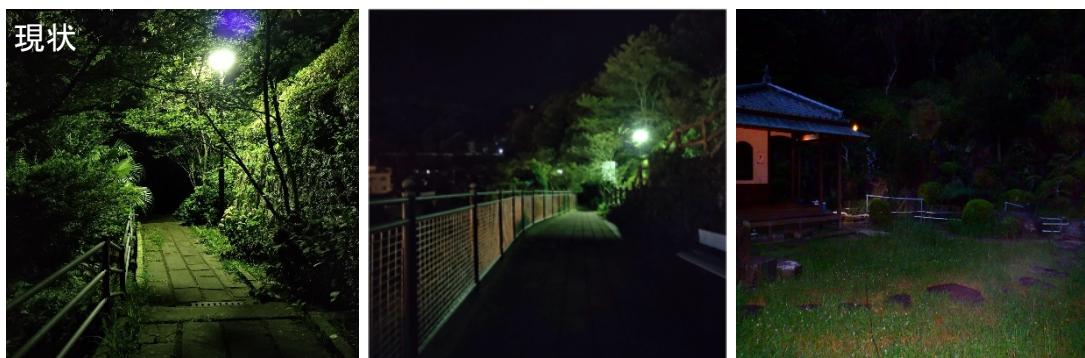
崎方公園下遊歩道を照らす足元照明と樹木のライトアップなどを新設します。

②崎方公園下遊歩道の色温度変更（3000K 以下）

既存照明のフィルター等による改善を検討します。

③和風庭園のライトアップ

樹木や景石を活かした陰影のある落ち着いた和の夜景を創出します。



4-3. 主要観光ポイントの夜間景観形成

観光地平戸を代表する観光ポイントは、夕刻から夜間にかけてもそぞろ歩きのポイントとなります。それらの大切なランドマークをライトアップし、平戸市ならではの夜の散策と歴史文化が楽しめる環境をつくります。撮影の楽しみがある常設のライトアップ演出をめざします。



	場所	計画内容
A	寺院と教会の見える道	石垣・白壁のライトアップ、辻行灯のライトアップ、竹林の演出
B	オランダ堀	石堀のライトアップ、階段の照明
C	オランダ公園	暗がりの払しょく・利活用に最適な環境整備
D	平戸オランダ商館	常設ライトアップ、イベント時のカラー使用のガイドライン化と遵守
E	平戸城	既にライトアップは完了している。
F	亀岡公園	遊歩空間の暗がりの払しょく。常設照明の魅力化。
G	平戸ザビエル記念教会	既にライトアップされているが更新時期には照明手法の見直しが見望ましい。

A) 寺院と教会の見える道

現在は照明が弱く暗がりとなっている場所があるので、そぞろ歩きのできる明るさの確保が重要です。石垣の続く景観価値を引き出し、かつ文化財保護のルールにも則った恒久的な照明演出をめざします。



令和5年度・社会実験時の様子



改修イメージ

「石垣ライトアップ」は景観的には美しく、アンケート結果も良かった。
常設時には設置方法について十分に検討する必要がある。

◆検討すべき手法

- 【石垣・白壁のライトアップ】
- 【石材辻行灯のライトアップ】
- 【竹林のライトアップ】



B) オランダ堀

現在は照明が弱く暗がりとなっている場所があるので、そぞろ歩きのできる明るさの確保が重要です。石垣の続く景観価値を引き出し、かつ文化財保護のルールにも則った恒久的な照明演出をめざします。



令和5年度・社会実験時の様子



「石垣ライトアップ」は景観的には美しく、アンケート結果も良かった。
常設時には設置方法について十分に検討する必要がある。

◆検討すべき手法

- 【堀のライトアップ】
- 【階段への置き照明配置】
- 【樹木のライトアップ】



C) オランダ公園

暗がりであったため使われてこなかった公園ですが、東屋もあり様々な利活用の可能性がある公園です。立地条件も良く、明るさを確保し、重要なパブリックスペースとして活かすことをめざします。



D) 平戸オランダ商館

ライトアップ演出は完了しており、白色の壁面をシンプルに照らし上げています。



全体を大きな照明器具で照射する手法



壁面下から細かくライトアップする方法もあります



歴史的建造物には原色のカラーや早い動きの演出はふさわしくありません



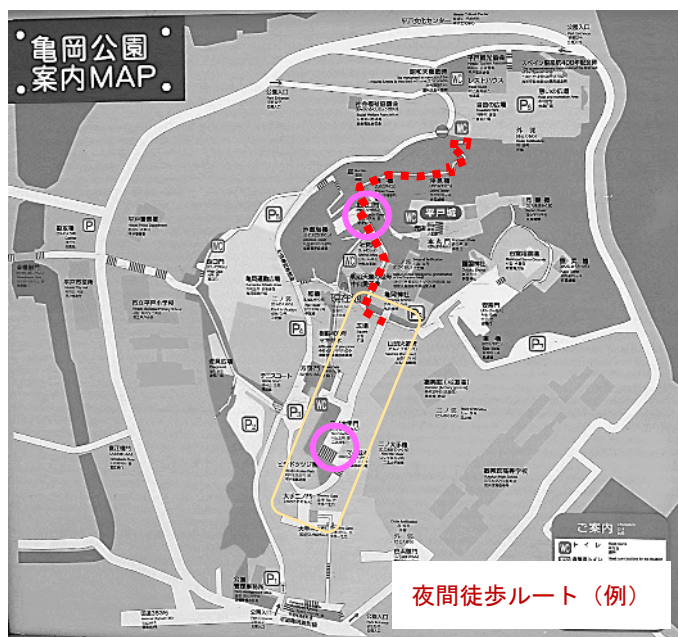
LED 機材の進化によって、通常は白色で照射し特別な日やイベント時にカラー演出を行うことは普及していますが、歴史的建造物にふさわしい色彩を選ぶ必要があります

E) 平戸城

ライトアップ演出は完了しており、白色と電球色が時間に応じて使い分けられています。カラー演出の色彩においては、意図やテーマを理解してもらえるしくみも重要です。

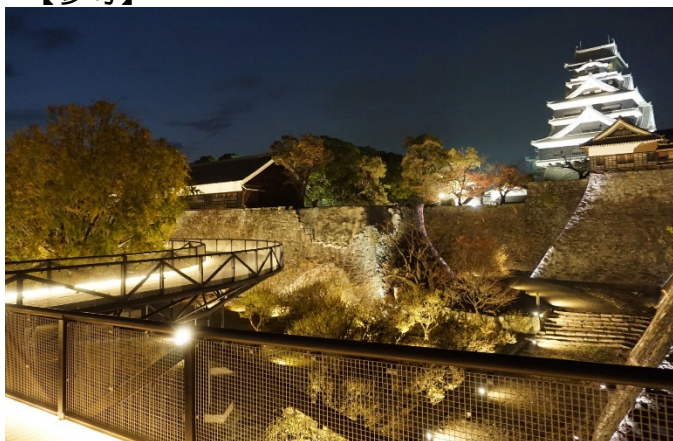
F) 亀岡公園

夜間の利用は特別想定されていないため、細部にわたって照明設備が整備されていません。将来的にそぞろ歩きの対象地とする場合は、ルートを想定した上でトータルな夜間環境形成が必要となります。



- ・公園内には、北虎口門や大手御門石垣など城跡遺構や復元遺構が各所に見られ、照明演出により魅力が高まる環境です。
- ・マキ並木やサクラ並木など、特徴のある緑が多数あり、樹木のライトアップも有効です。
- ・敷地エリアが広範囲なため、夜間景観として利用するルートを精査し、夜間ルートを確定したうえで、園路の歩行照明なども含めトータルな公園照明デザインを実施する必要があります。

【参考】



天守閣以外の園路や石垣も美しくライトアップされた熊本城
(熊本城 HP より引用)



石垣のライトアップによって歩くこともできる鳥取城